

(代表質問)

質問日	令和6年3月7日(木)		質問方式	分割方式			
質問順位	2	会派名	市民クラブ	議席番号	25	氏名	岩田 邦泰
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 令和6年度当初予算の提案について	<p>中野市長初めての当初予算提案については、先日の施政方針を聞き、また施策内容を見る中で、子育て支援の拡充など、当会派の提言からもいくつか取り上げられていたものと思ったところである。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 改めて中野市長の意気込みについて、特に重視した点や、元日に発生した能登半島地震が何かの事業予算に影響したかに加え、市債残高についての考え、財政健全化への思いも併せて伺う。</p> <p>(2) 施策を見るとやはり目的達成のため複合的な課題については多くの部署が協力しないと達成できないものが多いと感じる。一昨年は前市長に聞いたが、庁内連携への思いについて、「オール浜松」を推進する中野市長の考えを伺う。</p>						中野市長
2 能登半島地震を受けた取り組みについて	<p>今まで東日本大震災や熊本地震の教訓から防災対策を行ってきたと承知しているが、能登半島地震の被災地へ派遣された職員の声を聞き、東南海地震への対応や災害支援の考え方に変化があったものと推察する。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 現状の防災計画などをアップデートする考えはないか伺う。</p> <p>(2) 派遣された職員が寝泊まりする場所としてキャンピングカーの提供があったと聞く。以前から災害協定を進んで結ぶよう意見しているが、キャンピングカーの事例を踏まえ、災害協定に関する新たな取り組みを伺う。</p>						中野市長 石田危機管理監
3 ウェルビーイング指標を用いた施策検討について	<p>ウェルビーイング指標とは、行政が政策立案を図る際に主観と客観の数値を参考にするためのものであり、本市の南雲フェローが専務理事を務めるスマートシティ・インスティテュート（SC I）のホームページにデータが無料で公開されている。これを行政も市民も互いに理解できれば、本市が進める政策の意味合いが共有され浸透も早まることが期待できる。そこで、SC Iはこれを「社会の共通言語」にしたいとしている。</p> <p>今後、本市の次期基本計画の策定においては、ウェルビーイングの視点を取り入れ、SC Iのウェルビーイング指標を参考にした市民意識調査を基に、各政策や事業を立案していくとのことだが、それにはまだハードルが高いと感じる。</p>						

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) ウェルビーイング指標を用いた政策立案に対し、現状の検討状況と、その場合の変化点は何か伺う。</p> <p>(2) アンケート対象では世代や地域により、違いが顕著に出る項目も多い。世代間や地域間の違いをどのように評価し、施策に反映するのか伺う。</p> <p>(3) ウェルビーイング指標活用のため、OASIS研修を受けたプラクティショナー（実践者）活用状況と、管理職を対象に行ったOASIS研修の効果を伺う。</p> <p>(4) 今後、ウェルビーイング指標を用いた施策検討が行われていくものと考えているが、市民向けの講座などは考えているのか伺う。</p>	<p>中野市長</p> <p>〃</p> <p>水谷デジタル・スマートシティ推進部長</p> <p>〃</p>
<p>4 本市のユースカウンスル事業について</p>	<p>将来の浜松を担う若者が行政へつながりを持つことは非常に重要と考える。9月定例会のユースカウンスルの質問の際はこども家庭部長より「調査研究」と答弁があった。その後の決算審査特別委員会第1分科会の質疑では、広聴広報課事業の「はままつ未来議会」への参加者が、その後「チャット！やらまいか」「まちづくりミーティング」などの施策に継続的に参加する流れがなければ、行政参画が一時的な経験で終了してしまうことから、事業の継続性について確認し、担当課からは「継続性の重要度は認識しているが現状施策はない」との答弁であった。ここで翻って考えると、若者から広く意見を聞く広聴事業と、浜松愛を持つ次世代の担い手を育成する事業は、本来は近い関係にあると言え、企画調整部、若しくはこども家庭部のどちらかが主導し、本当のユースカウンスル事業を推進するべきと考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 会派提言でも本市ユースカウンスル施策は継続性ある取り組みであるべきと求めたが、9月定例会後の調査研究の進捗を含めて考えを伺う。</p> <p>(2) 昨年8月会派視察で訪れた尼崎市には、中学生から29歳の大人までが日常的に世代間交流を推進する「ユース交流センター」という施設があり、自分たちの思いを行政に反映する「UP to YOU」（君たち次第だよ）活動を行っている。まちなかにこのような施設を持ち若者発案の施策を実施する試みがあれば、一時のお堅い行政参画だけでなく賑わいにもつながると考えるが、考えを伺う。</p> <p>(3) 総務委員会視察で訪れた郡山市は、「Z世代活躍係」と称した部署を新設し職員・市民のZ世代の声を吸い上げて施策に活かす試みをしており、狙い通りZ世代の行政参画につなげている。このような部署の設置について考えを伺う。</p>	<p>山名副市長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
5 本市のブランディング手法について	<p>「ブランド・アイデンティティ」とは銘柄の個性を意味し、他銘柄と異なる明確な差別性があることとされている。本市として他市との明確な差別性を示すためには、産業面だけでなく全ての面で浜松ブランドとは何かを確立する必要がある。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 今回の組織改正では叶わなかったが、昨年の会派提言において、本市のブランディングについては、その確立に向けた専門部署を設けるべきと提言した。現状の農産品・観光・まち・子育てなどの市外に向けた都市ブランド力向上のみならず、市内に住まう市民へのブランディング浸透が必要と考えるが、市長の見解を伺う。</p> <p>(2) 一例としてLINE通報システムの呼称については、LINE以前から「いっちゃお！」と土木部門が愛称をつけていたが、追加された各機能には「通報システム」の名称は一貫しているものの「いっちゃお！」の文字はなく、土木通報システムにのみ「いっちゃお！」になっている。本来は他機能も既にブランドとして名が通っている「〇〇いっちゃお！」とすべきと考える。加えて各SNSについている愛称なども、本来統一性があるべきと考えるが、考えを伺う。</p> <p>(3) ブランドの一つとして「スポーツのまち」を推進するべく「スポーツ振興担当部長」が誕生した。今後の活躍を期待するが、プロスポーツチームや国際大会誘致で「見るスポーツ」でのシチズンプライド醸成に成功している宇都宮市は、経済部下の都市魅力創造課がその役割を担い、市民参加の「するスポーツ」では教育委員会事務局下と明確にすみ分けている。それらの性質の違いを見れば当然に思えるが、本市担当部長はどのようなかじ取りをしていくのか伺う。</p> <p>(4) 本市にメジャースポーツプロチームはないが、優良なプロチームは成長産業の一企業でもある。ならば企業誘致する効果は大きく、本市のブランディングにも大きく寄与する。「見るスポーツ」観点から、産業部としてチーム自体の売上や、まちなかの活性化への寄与などを鑑み、どのように考えるか伺う。</p>	<p>中野市長</p> <p>〃</p> <p>杉田スポーツ振興担当部長</p> <p>北嶋産業部長</p>
6 博物館・美術館などの収蔵品管理について	<p>決算審査特別委員会の質疑では、博物館・美術館の収蔵品管理について触れたところ、博物館は管理しきれない品についてトリアージの上廃棄・売却などを検討し、美術館では重要物品でなくてもトリアージはせず、全て保管するという事だった。</p> <p>そこで、以下伺う。</p>	

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>(1) 博物館の検討状況を伺う。</p> <p>(2) 美術館で増加していく収蔵品の公開方針や管理についての検討状況を伺う。</p> <p>(3) 検討が始まった徳川記念財団の貴重な収蔵品の展示館について、博物館・美術館とはどのようにすみ分けし、どこが所管していく方針なのか。本来は博物館、または美術館の分館などに位置づけ、責任ある展示・管理体制を構築するべきと考えるが考えを伺う。</p>	<p>嶋野文化振興 担当部長</p> <p>〃</p> <p>石坂企画調整 部長</p>
7 カarbonニュートラルへの取り組みについて	<p>脱炭素社会の実現は市民をも巻き込み、行政と市民が一体となって取り組む課題と認識しているが、部門により削減への難易度や達成量に差があると思われる。部門により難易度に差がある中で、どこがどのように補っていくか仕組み作りはされているのか伺う。</p>	<p>袴田Carbon ニュートラル 推進事業本部 部長</p>
8 家庭ごみの減量と有料化条例について	<p>私は一昨年の11月定例会で、ごみ有料化の否定はしないが、有料化が目的になっていないか、有料化の前に本来の目的である減量に関してもっと突き詰めるべきではないかとの立場で質問を行った。その1年後となる昨年の11月定例会での齋藤和志議員の質問においては、市長から2月定例会での条例制定と有料化で得た収入の用途に加え、一定の削減達成状況を見極めた上で、条例改正後のしかるべき時点で有料化の判断を考えている旨の答弁があった。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 用途については、減量や資源化につながる環境整備や集積所管理の負担軽減に活用とのことだった。本来は減量化の発端となった平和最終処分場の後継施設の計画に活用することや、収集方法から抜本的変更を加えて減量する施策が必要と考えているが、有料化した時の具体的な施策はどのようなものか伺う。</p> <p>(2) 再々質問に対しては、行政・市民が一体となって減量・資源化に邁進するとの答弁だったが、過去の延長線上の施策ではそれなりの成果しか得られず、結果単なる有料化になる気がしてしまう。どのように一体としていくのか伺う。</p> <p>(3) 令和4年度に学校にテスト配付したコンポストの成果はいかがか。またトートバッグ型コンポストをまちなかの学校にもテスト配付する考えはないか伺う。</p>	<p>中野市長</p> <p>〃</p> <p>山田環境部長</p>
9 入野古墳について	<p>先日、入野古墳の勉強会・見学会に参加した。古墳は5世紀前半頃に築かれた円墳で、大変ユニークなものであることを知った。現在、古墳一帯は公園指定され自由に入れて、歴史の風を感じながら市街地を一望できる素</p>	<p>嶋野文化振興 担当部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>晴らしい場所である。しかし、現在までのところ、約 30 年前に行われた市民主体の調査以降、本格的な学術調査は行われておらず、正体は謎のままになっており、また周辺の急斜面などへは、公園ならば安全対策なども求められる。古墳の調査及び公園としての安全対策や周辺整備の考えについて伺う。</p>	